

# 2020年度分野横断的演習について (1/2)

## 1. 実施概要

内閣サイバーセキュリティセンターは、重要インフラ分野におけるサービス障害への対応能力の維持・向上を図ることを目的に、「分野横断的演習」を実施した。この演習は、実際の事案発生を模擬することにより、重要インフラ事業者等が実施するサイバーセキュリティ対策が有効に機能しているかどうかを確認し、改善につなげるためのものである。

## 2. 演習の形態

### ● 机上演習

昨年度までは集合会場で実施（一部は自職場）してきたが、今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、集合会場を使用せず、自職場から参加する方式とした。また、テレワーク環境からも参加した。

## 3. 実施時期

- 2020年12月8日（火） 13:00～17:00

## 4. 参加者

- 参加者全体：4,721名（656組織）
- 重要インフラ事業者〔情報通信、金融、電力等の14分野〕：4,047名（465組織）
- 重要インフラ所管省庁、情報セキュリティ関係機関 等

## 5. 2020年度の特徴

- テレワークが広く実施されるようになったことに鑑み、テレワーク実施事業者において、テレワークに関するセキュリティリスクを勘案した対処体制の構築やインシデントへの対応が適切に行えるかどうかを確認
- 東京2020大会延期を踏まえ、東京2020大会時における対応についても考慮

# 2020年度分野横断的演習について (2/2)

## 6. 橋本大臣挨拶

演習開催にあたり、橋本聖子東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会担当大臣（サイバーセキュリティ戦略本部副本部長）の挨拶があった。橋本大臣は、参加者に対し、本演習を通じて課題を抽出・改善し重要インフラサービスの安全かつ継続的な提供につなげることを期待する旨発言した。



橋本大臣挨拶（ビデオメッセージ）

## 7. “テレワーク環境”に関する演習実施状況

- 演習内でテレワークでの作業として実施されたものの例
  - ・NISC等から得た情報提供を社内関係者に展開
  - ・社内において発生したインシデントについて、セプター事務局や重要インフラ所管省庁を通じたNISCへの情報連絡
  - ・事業継続計画（IT-BCP等含む）やコンティンジェンシープランによる緊急連絡ルールに基づいた作業の実施（障害やサービスの状況に関する情報収集・共有、サービスへの影響把握、復旧に向けた対策の検討・実施等）
  - ・自社のサービス利用者に向けた、Webサイト、SNS等による情報発信

## 8. “東京2020大会”に関する演習実施状況

- 東京2020大会を想定した演習を実施したものの例
  - ・空港運営部署も訓練に参加し、空港ターミナル内の旅客が滞留した場合を想定
  - ・マスクミヤ顧客からの問い合わせが殺到する状況を想定
  - ・東京2020大会に係る事業所の複数システムにおいて、サイバー攻撃を受けた状況を想定